

令和 7 (2025) 年度 柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

日 程	令和 7 (2025) 年 7 月 28 日 (月)
内 容	・ 概要説明（原子力発電のしくみ、安全対策の状況など） ・ 展示館見学 ・ 6 号機原子炉建屋・タービン建屋 オペレーティングフロア（ギャラリー室） ・ 質疑応答・意見交換
参加者	－ 委員 － 飯田(耕)、岡田、小田、細山、品田(善)、品田(剛)、品田(信)、白井、 竹内、星野(正) 10名 － 事務局 － 柏崎原子力広報センター 近藤事務局長

敬称略、五十音順



地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 飯田 耕平

前期委員の時に見学できなかったもので、今回参加させていただきました。

見学前に大東正樹副所長より今日の見学コースと柏崎刈羽原発の取り組み等について説明がありました。その後、サービスホールのジオラマで原発敷地全体の配置等の説明を受けました。

原発正面ゲートでバスの中で本人確認を受け、構内に移動、展望台から 1～7 号機を俯瞰し、また非常時の電源車や消防車等の配備状況を確認することが出来ました。7 号機の校内見学の後、防潮堤と特殊フェンスを見学しました。

今回は前回の 7 号機に代わり 6 号機の構内視察となりました。テロ対策等に備え対応が進められた「本人確認」を 3 回行って初めて 6 号機構内に入りました。日常生活では考えられない厳重な警備態勢に、セキュリティー対策が進んでいると感じました。そして、改めて原子力発電所は「核物質」を取り扱う危険な施設であることを強く感じました。

ウクライナ戦争では、ロシアによる「核兵器」使用の威嚇、原発施設等への攻撃が行われ、原子爆弾を使わなくても核の脅威を引き出せる施設として、原発が今日の世界にあることを強く感じました。

また、日米共同軍事演習で自衛隊制服組トップが、中国を念頭に核兵器の使用を米軍に何回も要求し、机上演習で実施されたという報道に驚きました。日本政府は、「核武装、核共有、核使用」の核 3 原則を国是としていると信じていました。核兵器の使用がますます現実味を帯びる状況の中で原発の見方をテロ対策だけでは済まなくなっているのではないかと心配です。

7 月 26 日の九州電力玄海原発の上空にドローンとみられる光る物体が侵入しました。竹内委員の質問に稲垣所長は「その対策をとってある」といっていました。ウクライナ戦争や中東の戦闘で、ドローンによる攻撃が数多く見られました。原発は核燃料、使用済み核燃料等核物質が多く存在する施設です。柏崎原発は、ミサイルやドローンによる攻撃に本当に対応できるとは思えません。このような観点からも、原発は私たちの生活に絶対必要とする施設ではないと感じています。

また、新規制基準に対応した安全対策、セキュリティー対策に要した費用は膨大な費用に膨れ上がってきています。原発の発電単価は上がるばかりです。原発は決して安全性からも、経済性からも優れた電源施設になり得ないのではないのでしょうか。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 岡田 和久

ビジターズハウスでの概要説明については、現在実施されている安全への取り組みが、福島第一原子力発電所事故の経緯と教訓を整理されて、その課題解決また設備の増強のために取り組まれている旨を分かりやすく説明いただき、よく理解できた。説明資料「安全を高める日々の取り組み」には、福島事故以前からの対策と、それ以降に追加・強化した対策がわかりやすく表記されており、理解が進んだ。

構内の見学については、6号機の周辺防護区域、防護区域への立ち入りのセキュリティの改善も進んでしっかりと実装されていることを確認した。社長直属のモニタリング室で緩みがないようチェックをしていくということだが、ハード、ソフトともに高いレベルを維持していただきたいと思う。

原子炉建屋、タービン建屋の見学については、燃料装荷を終えた6号機の状況を間近で見ることができ、7号機とともに、追加された多重の安全対策施設によって、福島事故以前とは遥かに安全な状態で再稼働を迎えていると理解できた。

また、説明資料のうち、「柏崎刈羽原子力発電所における安全対策設備※」に記載のある、「放射性物質の放出を10日間程度回避」という部分で、代替熱交換器車の活用などでその時間が稼げること、またフィルターベントの説明ではその性能を伺い、こちらも福島事故の教訓が活かされた安全対策が理解できた。こちらの説明は、その場で複数の安全対策設備の実物を拝見しながら聞くのと、紙面での説明ではかなりの差があると思い、多くの方に現場に足を運んでの説明の機会があるとよいと思う。

視察を通して多く感じたことは、稲垣所長をはじめ、アテンドいただいた皆様が東電社員、また協力会社の作業員の方に声掛けを積極的にされており、声掛けに応じる方も緊張するような素振りもなく、日常的によりコミュニケーションが図られているのだと感じられた。この点も、ここ数年の改善がよく表れているのだと思う。

東京電力HDの皆様にはご多用のなか、丁寧な説明、現場の案内をいただき、感謝申し上げます。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 小田修市

東京電力柏崎刈羽原子力発電所 6 号機視察について

前回は7号機を視察しましたが、今回は6月に燃料装荷がされた6号機を視察しました。管理区域にも入りましたが、前回同様に厳重なセキュリティ対策がなされていました。6号機内の視察では7号機と同型のプラントである為、追加された安全対策は7号機と同等であり、違いは無いように感じられました。粛々と安全対策工事や点検が進んでいる事が確認できました。

毎年何回か視察をしていますが、今回の視察で初めて確認させていただいたところはセットバックに関わるフェンスの造成工事でした。管理区域を従来よりもコンパクトにして、より強固かつ確実に管理される事になると思われます。それに伴う事務本館の移設建築工事を始めとする様々な工事が構内で行われていました。

福島事故を受け、その知見を活かした安全対策工事が進み再稼働目前まで来ていると実感しました。日本が抱えるエネルギー問題や今まさに起きている猛暑、水不足といった温暖化対策の為に1日も早い再稼働を期待します。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 細山 恭輔

今回の視察にあたり、対応いただいた東京電力様、調整にあられた事務局や運営委員の皆様に感謝申し上げます。

昨年、職場の関係で構内を視察する機会があったが、その時と比べて構内の従業員数は500名ほど増えていた。バス車内からも構内のいろいろな箇所では安全対策工事が進められているのを確認でき、再稼働に向けた準備が着々と進められているという印象を受けた。

発電所のセキュリティを高める取り組みについて説明を受ける中で、立入制限区域を内側へ変更する工事の現場を確認させていただいた。新たに設置された柵を実際に触らせてもらったが、とても頑丈なものであった。

一方で、立入制限区域から外れる部分についても監視カメラが設置されるとの話があった。数が増えれば安全性は高まると思うが、その分管理も大変になるのではないかと不安も覚えた。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 品田 善司

今回の視察に対し、東京電力HDの皆様より準備から当日の対応と大変お世話になり、有難うございました。

新任委員も4名参加し、10名での視察となりました。

この視察は後学のためにあり、現状を把握し、今回の経験を今後の議論の糧にしてほしいと思います。

6月下旬に6号機の燃料装荷が完了し、また新規制基準に則り、安全対策工事が進んでいることが確認できました。

地上からの不審者に対するハード面の対策はほぼ出来ていると感じました。

今回の視察直前に玄海原発内で『ドローンと思われる3つの光』報道があったばかりでそれを気にしながらの視察であった。

もしも、同様の事案があった場合には、玄海と同じ対応であったのか、または違う対応をとっていたのか、知りたいところではある。

目に見えない防護対策であるが故にPAZ圏内に暮らすものとして、知りたい部分でもある。

再稼働に向け着実に体制を整えているところであるが、今後も将来に向けた（運転員など）人材の育成をはじめ、ソフト面の強化も今以上に進めてほしいと思います。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 品田 剛

私は地域の会の委員としては、初めての柏崎刈羽原子力発電所の視察となりましたが、1年に1回程度、様々な機会で見学をさせて頂いております。

今回の視察では、自然災害、原子力災害が起こった時を想定した安全対策設備の概要説明や6号機の再稼働に向けた準備状況等の説明を丁寧にして頂き、新規規制基準を踏まえた様々な対策を改めて確認し、再稼働に向けた準備が適切に行われている事を確認することが出来ました。

また、現在実施されている立入制限区域のセットバックフェンスの工事箇所の視察もさせて頂き、セキュリティ対策についても新たな改善への取組を確認させて頂きました。酷暑の中での屋外作業となりますので、作業員の方々の体調等に十分配慮して、安全作業に努めていただければと思います。

今回の視察でご対応頂きました、東京電力ホールディングス株式会社の皆様、大変ありがとうございました。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 品田 信子

今回、柏崎刈羽原子力発電所見学をしました。

私は、セキュリティ対策が地域の会に入る前に大丈夫なのかという疑問がありました。

他人のカードを持っていたら入れるのではとの見解でした。

この会に入る前の私は、セキュリティ不備等の報道、その後の対応はどうなったのかは、東京電力の広報誌等でしか分からない。それを、疑問に思っても、読むこともしなかったのが私でしたので、今回このように発電所を見学、安全対策等をその場所で見ることができ、体験することで、より一層内容を理解できました。

福島事故前に福島の発電所、柏崎の発電所を何回か見学の機会がありました。その時は、安全対策・設備の説明もあったはずなのに、覚えていることは恥ずかしいのですがありません。今回見学したことで、我が事になり、このような機会をより多くの方に見学をしてもらいたいと思いました。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 白井 広一

入構の際のセキュリティチェックを厳格に行っていたこと、6号機の原子炉建屋内の安全対策、防潮堤の設置、工事中であったが立ち入り禁止区域が二重に設置されることなど福島事故を受けて安全対策工事が進んでいることに現地を視察して改めて実感しました。以前に2度ほど見学させていただいた時と構内の様子が大きく変わっていたのでたいへん驚きました。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 竹内 英子

今回は安全対策設備と6号機を中心に視察しました。

代替循環冷却設備などで、「放射性物質の放出を10日間程度回避できる」とのことでしたが、10日間あるのであれば、屋内退避などと言わずUPZも順次避難した方がよいのではないかと思います。災害の規模や安全対策の機器が想定通りとは限りません。「10日ある」と思ってしまふことで、避難対応が遅れることも心配です。

柏崎刈羽原発は他の原発に比べて敷地が広すぎることは、私自身の中で不安を感じていた要素でした。今回の視察では、立ち入り制限区域を狭くするセットバックの作業が進んでいるのを確認できました。林の先にあるフェンスではなく、内側からも容易にフェンスを見回ることができるようになったことはよかったのではないかと思います。

新しい特殊フェンスにも監視カメラなどが設置されていましたが、従来のフェンスの監視カメラも引き続き運用していくとのことでした。2021年に核物質防護設備の機能の一部喪失で原子力規制庁の指摘を受けたことを思い返すと、侵入者を検知する核物質防護設備の機器が増えれば増えるほどその点検、保守は煩雑になり、不適合が増えてしまうのではないかと感じます。

質問1：従来のフェンスの検知器と新しいフェンスの検知器とでは、何らかの形で監視の優先順位をつけるのでしょうか。

オペレーティングフロア(ギャラリー室)から燃料が装荷されている6号機の使用済み燃料プールと原子炉格納容器を見学した際に、「もう少し片付けば、防護服なしで作業できるようになる」との説明がありました。

質問2：7号機に装荷した燃料を外す際には、どのくらいの期間でどのような作業をするのか教えてください。

6号機の仕組みを教えていただいた際に、海水温が上がる夏は発電効率が下がることを知りました。また火力発電が超臨界圧発電システムで蒸気700℃を目指している中、原発では蒸気の温度は300℃以下とのことでした。温暖化で気温だけでなく海水温も上がる中、わざわざ熱を作って発電するやり方(原子力・火力)自体に無理が出てきており、蒸気の温度を上げられない原発は特に不利な発電方法だと感じました。

地域の会 令和7（2025）年度

柏崎刈羽原子力発電所視察 所感

氏名 星野 正孝

猛暑の中、親切かつ丁寧な対応及び説明に感謝申し上げます。

所長自ら率先して誘導や案内また、副所長による説明が丁寧で、内容についても理解できました。

セキュリティに関しては、3回の通過と高度な認識管理が行われており、安心しました。

今回の視察は6号機との事で改良型沸騰原子炉との説明で、1～5号機の比べ建屋もコンパクトで発電能力は逆に1.3倍との事で、技術の進歩にも感心させられました。

現在希薄化している人間関係の中で、積極的にコミュニケーション活動を取り入れ、社員また協力企業の皆さんの一体感を感じました。

最後の工程で防潮堤や防火帯 防護柵など、自然災害や外部侵入への自主的部分を含めての安全管理にも大変共感させられました。

そんな中で気になった点として、原子炉最上部分にある燃料棒を冷却するプールに関し、異物混入禁止用の柵がありましたが、この中は15メートル以上の水位があるとの事で、もし間違って転落した場合や水に反応する薬剤などが投入される可能性を考えた時、不安を感じました。「作業性を考慮してこのようにしている」、と伺いました、30年以上前に視察見学した時と同じ状況だったことと、各種安全対策が進んでいる中で、少し疑問を感じました。

以上